

社会福祉法人淳風会

特別養護老人ホーム淳風おおさか/大阪府大阪市

社会福祉法人淳風会は、高齢者支援事業や子育て支援事業を展開している、今年で31年目を迎える社会福祉事業者様です。

淳風会の『淳』は「情に厚い、素直で飾り気がない」こと。この気風を大切にし、0歳から100歳を超えるご長寿の皆様に、安心や安全といった目には見えないものを見る形にしてサービスを提供されています。

本事業では、災害時に大阪市の福祉避難所となる特別養護老人ホーム淳風おおさかに、停電対応型CGSと標準型GHPを設置。停電時にも空調や電子機器等の継続利用が可能になりました。



特別養護老人ホーム淳風おおさか 外観

補助事業の概要

- | 導入設備:停電対応型CGS 25kW×1台
- 標準型GHP 25HP×2台
- 標準型GHP 20HP×3台
- 標準型GHP 16HP×2台
- | 補助金額:34,608千円

事業者様の声

補助金を用いた設備導入の経緯と効果

特別養護老人ホーム淳風おおさか 施設長 道脇 央好様

近畿地方を中心に大きな被害をもたらした平成30年の台風21号や大阪北部地震といった昨今の災害により、社会福祉事業者として、災害時に施設機能を維持するための対策の必要性、重要性をあらためて認識させられました。そこで当施設においては、災害時における必要電源の確保に加えて、入居者の健康を維持するために必要な環境機能を維持するという問題に対し、空調設備の更新期を捉えて施設全体のBCP対策に取り組むことにしました。

設備システムの選定にあたってのポイントは2点。1点目は、災害時に電源の多重化を図ることでエネルギーセキュリティ向上させること。2点目は、平時の省エネルギー化にも貢献する設備であること。これらのこと踏まえて検討を行った結果、都市ガスを熱源とする停電対応型CGSの導入が最適であるとの結論に至り、具体的な検討を進めました。

エネルギー関連事業者(Daigasエナジー(株)、株エネテック大阪)による提案をはじめとした協力の下で、上記のポイントに対応するシステムとして、停電対応型CGSから施設内の電子機器と標準型GHPへ、災害時に給電を行う設計としました。

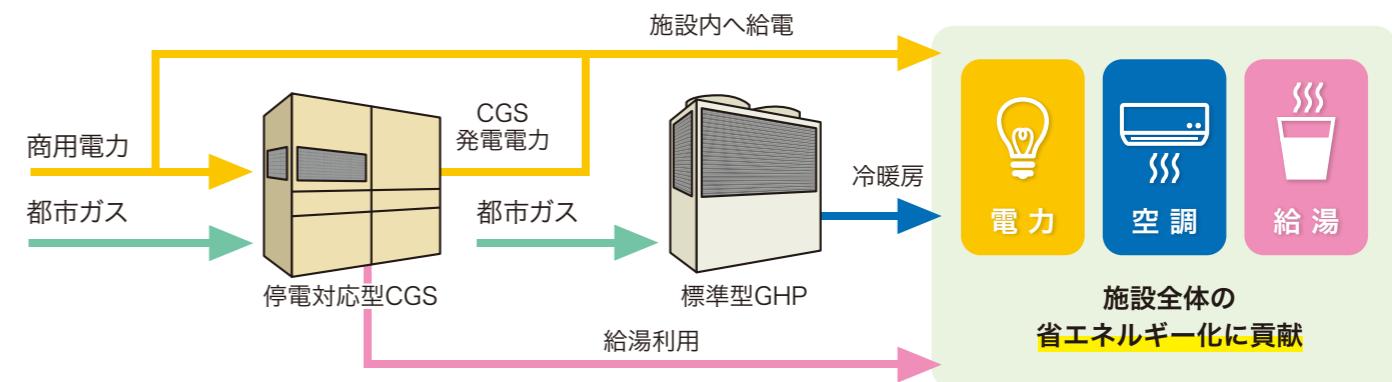
検討上の課題であったCGS容量の最適化とコスト削減については、GHPの採用を工夫することで対応を図りました。災害時の空調利用に必要な電力量を抑制するために、現行空調機器と比較して消費電力量が大幅に低減されたGHPを採用。また既存の空調関連設備(冷媒配管など)を有効活用できるGHPを採用することで、施工費の抑制に努めました。加えて、申請が可能な事業(設備システム)内容であったことから、本補助金を活用させていただくことで、事業の実施に至りました。

今回のシステムの導入により、停電時にも空調が利用できるようになり、利用者の健康管理面において非常に高い効果を得られたものと感じています。また、1階と3階以上のフロアに設置した災害用コンセントも、非常に高い効果が期待されます。ハード面においては、浸水等の被害状況に応じて、平時は1階にある本部機能を3階以上へ移設できるようになるなど、機動的かつ自律的な対策を行うことが可能となりました。一方でソフト面においては、利用者ご家族への情報発信・連絡などの手段となるパソコン等の通信機器の利用が可能となるため、施設利用者やご家族の皆様の安心・安全といった側面での対策にもつながるものと考えています。

平時・災害時のエネルギーシステム

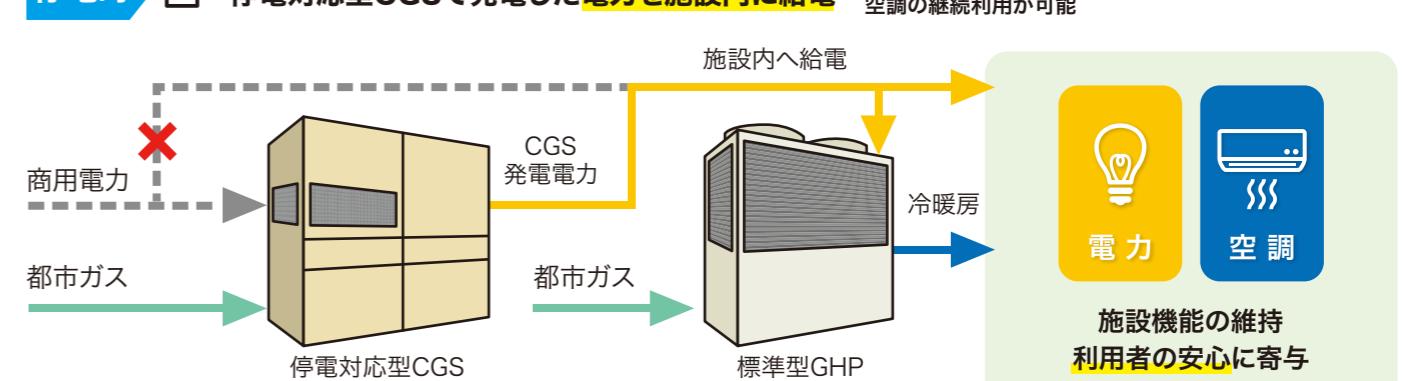
平時

消費電力量を大幅削減 CGSの発電利用と消費電力量が少ないGHPにより、契約電力の低減が可能



停電時

停電対応型CGSで発電した電力を施設内に給電



停電時の設備活用例

給電利用



充電式ランタンの活用イメージ

- 非常用コンセントから充電式ランタンに給電
- 施設利用者や職員が使用する施設内の照明を確保できる

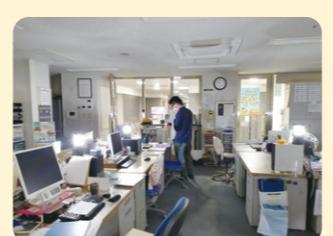


空調の継続利用が可能な避難スペースの一例

空調利用

- 避難スペースや事務所等の空調の継続使用が可能

施設利用者の健康管理が第一であるなかで、施設内の冷暖房が利用できる環境は、何よりの安心材料になっている



通信機器の活用イメージ

- 非常用コンセントからパソコンに給電
- 利用者ご家族への情報発信、自治体等の情報収集が可能
- 3階にも非常用コンセントを設けたことで、浸水時にも施設機能の維持ができる



災害用コンセントの活用イメージ

- 災害用コンセントを用いて、スマートフォンの充電や痰の吸引機を使用

状況に応じて様々な電子機器を利用できることが安心感に繋がった